



公益社団法人 北海道私立専修学校各種学校連合会

広報北専各連

札幌支部・函館支部・小樽支部・空知支部・旭川支部・北見支部・道東支部・十勝支部・胆振日高支部

■発行人/吉田 松雄 ■編集人/笠島 史生 ■住所/060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目 札幌ガーデンパレス内 ■TEL/011-242-1955 ■発行日/令和2年3月31日



北海道で
働く

vol.
41

目 次

●ごあいさつ	1
公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会 北海道総務部法務・法人局	理事長 吉田 松雄 学事課長 近藤 史郎
●第 62 回北海道私立専修学校各種学校教育研修大会	2
●令和元年度事業報告	3
次世代人材職業体験推進事業 進路探究学習オリエンテーリング事業 2019（第 48 回）専門学校等進路相談会 高等学校内キャリア教育プログラム キャリアサポートセミナー 文部科学省委託事業「職業教育魅力発進力強化事業」 専門学校勉強会 専修学校概要・進学ガイドの発行 教員能力認定研修会・文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会	
●令和 2 度事業計画	7
●教員能力認定研修会 優秀レポート紹介	8
●要望活動等	10
●受章者紹介	10
●支部だより	11
札幌支部、函館支部、空知支部、旭川支部、北見支部、道東支部、胆振日高支部	
●会員校の動き	13
●2020（第 49 回）専門学校等進路相談会のご案内	14

ごあいさつ



公益社団法人
北海道私立専修学校各種学校連合会
理事長
吉田 松雄

会員校の皆様には、節目の行事が続いて慌ただしいなかにも身の引き締まる思いでお過ごしのことと存じます。

我が国は、本格的な少子高齢化の時代を迎え、昨年の全国の出生者数は90万人を割りました。専修学校、各種学校にとって重い課題です。同時にこのことは、将来、道内の各地域で活躍する若者が大きく減少することであり、地域の活力が減退するという深刻な事態を招くということでもあります。

現在、国では人生100年時代を見据えて「人づくり革命基本構想」を進めています。

この構想に基づき、本年4月から高等教育機関の授業料減免、給付型奨学金の制度がスタートします。これまで、産業界と連携を図り社会のニーズに即した即戦力の職業人を育成している専修学校、各種学校への期待の証と受けとめています。

このような社会情勢や専修学校・各種学校への期待を踏まえ、私どもは、職業に直結する教育を行う学校として、その実績を着実に積み重ね、教育の質保証・向上に向けた取組みや多様な学びの機会の提供など常に新時代の職業教育を考え、若者一人ひとりが、正しく職業の理解を深めるとともに適切な職業選択により社会の一員として活躍できる人材の育成に不断に努めていかなければなりません。

また、引き続き、次代を担う中学生や高校生に対して、職業の理解や体験の場を提供するキャリア教育などにより地域社会に貢献していくことも北専各連の使命であると考えています。

北専各連は、今後とも本道における職業教育の発展に努めてまいります。

会員校の皆様には、長きにわたる教育の歴史により築かれたそれぞれの学校の特色を活かして益々のご発展され、すばらしい人材を輩出していかれることをご祈念申し上げます。



北海道総務部法務・法人局
学事課長
近藤 史郎

皆様には、日頃から私立専修学校、各種学校教育の充実・発展に多大なご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、道政の推進に深いご理解と暖かいご支援を賜り心から感謝申し上げます。

さて、人口減少やグローバル化の進展等様々な社会環境の変化に対応しながら、活力ある北海道を築いていくためには、教育の役割がますます重要となっており、特に、産業の高度化に伴い、複雑で困難な課題に対応できる専門性や実践力を有する職業人が、求められています。

このような中、専修学校・各種学校は、産業界や経済界の要請に応え、中核的な教育機関として職業や实际生活に必要な知識・技術・技能について実践的な教育を行うなど職業教育をリードする重要な役割を果たされ、社会に有為な職業人を多数輩出し、道内経済の発展に大きく貢献されており、企業や地域社会のニーズが多様化する中、より専門性の高い即戦力や、変化に柔軟に対応できる創造性と応用力のある人材の養成が一層期待されているところです。

専修学校、各種学校の皆様におかれましては、今後とも、社会で活躍できる実践力はもとより、企業や地域に求められる柔軟な発想力や果敢に挑んでいく行動力をもった本道の未来を支える人材の育成に、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

近年、企業等と密接に連携してより実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む「職業実践専門課程」の認定制度や実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関としての「専門職大学」「専門職短期大学」が創設され、さらには、本年4月から低所得世帯を対象とした授業料等減免や給付型奨学金の支給による高等教育の無償化が実施されるなど、職業教育を取り巻く環境は、めまぐるしく変化をしており、私どもとしましても、皆様方との連携と協働の下、直面する課題に真摯に取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続き格段のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、北海道私立専修学校各種学校連合会及び会員校のますますのご発展と、皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げます。ごあいさつといたします。

第62回「北海道私立専修学校各種学校教育研修大会」

(全国専修学校各種学校総連合会北海道ブロック会議)

開催日・開催場所

令和元年9月12日、13日の両日、函館国際ホテル（函館市）において「新たな時代に向けた職業教育の発展」を大会主題に掲げ、第62回となる教育研修大会を開催いたしました。（主管：函館支部）

開会式

道内専修学校各種学校関係者83名の出席のもと、まず、大会長である吉田松雄北専各連理事長があいさつに立ち、「日本を含めて世界の変革はめまぐるしい。他方、18歳人口の減少という専修学校等にとっては厳しい環境となっている。こういった状況のなか、私たちも変わっていかねばならない。そのためにもこの研修会を一つの節目として、次のステップに向けた努力を皆さんとして参りたい」と述べました。



続いて、本大会の実行委員長である奥ひろみ函館支部長から、今大会では専修学校等を取り巻く様々な状況に即したプログラムを用意したとして、各プログラムの概要の紹介がありました。

この後、赤池誠章参議、前田一男前衆議、川尻秀之道議そして全国専修学校各種学校総連合会の福田益和会長からご祝辞をいただき、講演に移りました。

講演

講演Ⅰ

演題「専修学校・各種学校をめぐる最近の動向」
講師：文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課

専修学校教育振興室 専門官 河村和彦様

河村和彦様からは、科学技術の進展に伴う高等教育の変革の必要性が言われ、社会変化の中で教育の役割が改めて問われる状況のなか、専門性を有する高度な職業人材の育成が必要となっており、柔軟性のある専修学校にこそ対応が可能であるとし、高等教育の就学支援新制度を初めとする文部科学省が概算要求している来年度の専修学校の各種の施策及び予算案等に関して説明がありました。



講演Ⅱ

演題「専修学校・各種学校の現状と課題」

講師：全国専修学校各種学校総連合会

事務局次長 菅野国弘様

菅野国弘様からは、初めに高等教育の就学支援新制度により来年度予算で専門学校に対する予算が大幅に増加することに触れるとともに、全専各連の令和元年度事業計画と特にその中の重点目標についての説明がありました。



講演Ⅲ

演題「時代の変化に負けない集客戦略」

講師：函館蔦屋書店株式会社 取締役 山本大輔様

山本大輔様からは、蔦谷1号店（1983年）ができた若者が多かった時代と現在の少子高齢化やスマホなど技術



革新の進展などの社会の変化に対し、ネットではできないことを店舗で行う、店舗において上質な時間と空間を提供することを目的に蔦屋書店が誕生したことや蔦屋書店が

函館に誕生した経緯、お店の特色やこだわりなどについて紹介がありました。

また、「人の輪＝コミュニティ」をコンセプトに函館蔦屋書店で多くの様々なイベントを開催することで函館のコミュニティの活性化を図っていると、今後とも函館を良くしていくために頑張っていきたいとお話をいただきました。

講演Ⅳ

演題「専門学校を取り巻く環境の整理と求められる対策～教育力の可視化と広報～」

講師：(株)進研アド専門学校事業部

副部长 松本晴輝様

松本晴輝様からはまず、4年生大学への進学率が上昇する一方で18歳人口の減少が続いていくなか、生産年齢人口の減少に対して大学を中心とした高等教育



機関での学びの充実が活発化しており、このため大学教育の質保証向上や高等教育の就学支援などの取組が進められている

とともに、高大接続改革により教育力の向上や可視化が求められているなか、高校でどのような変化が起きているか説明がありました。

そしてこれらの動きを踏まえて、これからの専門学校に求められる情報発信（広報）のあり方についての紹介がありました。

閉会式

北専各連の布川事務局長から、ご講演いただいた方々への感謝と研修会で得られた知見を今後の学校運営に生かしていくとの挨拶で閉会しました。

令和元年度事業報告

次世代人材職業体験推進事業

北海道の補助事業により、職業体験の機会が少ない札幌市以外の中学生を対象に、若年者に不足している職業観、勤労観に対する理解促進を目的とした職業体験を開催しています。

令和元年度は専修学校 90 校が 243 講座を設定したところ、中学校 274 校から受講申込みがあり、1,757 講座を開催し、13,461 人が受講しました。

札幌市外の中学生が職業について体験できる機会として、毎年、1 万人を超える中学生が利用する取組となっています。

年度	申込中学校	開催講座数	受講生徒数
H29	265 校	1,696 講座	14,399 人
H30	255 校	1,622 講座	12,837 人
R01	274 校	1,757 講座	13,461 人



進路探究学習オリエンテーリング事業

札幌支部が取り組んでいる事業で、中学生の学習意欲を高め、自立した社会人へと成長していくために必要な勤労観・職業観を身につけ、より主体的に学ぶ力を育むことを目的に、平成 25 年度から札幌市からの委託を受けて実施しています。

令和元年度も札幌市立中学校・中等教育学校の全ての 1・2 年生を対象に 7 月 20 日(土)から 8 月 22 日(木)にかけて実施しました。

今年度は 57 校の札幌支部会員校から 104 講座が提供され、案内パンフレットやポスターを制作して募集を行い、札幌市立中学校等のうち 95 校から 1,288 名(昨年 894 名)の申込みがありました。このうち実際の受講者は 1,083 名(昨年 756 名)となりました。また、保護者の見学は 463 名(昨年 350 名)でした。

毎回、受講した生徒の皆さん、見学された保護者の皆さんから高い評価をいただいています。

年度	実施講座数	参加中学校数	参加中学生数	参加保護者数
H29	65 講座 69 コース	97 校	1,104 人	452 人
H30	67 講座 71 コース	96 校	756 人	350 人
R01	83 講座 86 コース	95 校	1,083 人	463 人



2019（第48回）専門学校等進路相談会

3月から5月にかけて道内7カ所で2019年度専門学校等進路相談会を開催しました。

昨年度に引き続きジョブカフェ北海道のご協力をいただき、カウンセラーによる「職業興味検査コーナー」及び「職業相談コーナー」を設けるとともに、共立メンテナンス(株)やユニライフによる「住まいの相談コーナー」を設けて、来場高校生にご利用いただきました。釧路、北見、滝川、函館、稚内会場では、企業による職業説明・体験コーナーが設けられ、来場した高校生等が職業への興味や関心を深める機会になりました。

今年度より、日本学生支援機構のスカラシップアドバイザー事業を活用して、奨学資金説明会を同時に開催しました。今後も来場者増になるよう積極的にPRします。

札幌、帯広会場は「NPO法人高校生進学支援の会」との共催で、専門学校87校、大学・短大42校が参加しました。



開催地	開催日	参加学校数		来場者数(人)						
		専門学校	大学	生徒	父母等	教員	計	職業興味検査・相談コーナー	進学マネー講座	日本学生支援機構・奨学資金説明会
帯広	3月18日(月)	47	6	72	36	4	112	—	80	—
北見	3月19日(火)	51		106	3	8	117	27		3
釧路	3月20日(水)	44		147	2	9	158	29		30
滝川	4月22日(月)	44	1	126	2	8	136	15		15
札幌	4月23日(火)	67	39	682	168	15	865	—	285	—
函館	4月24日(水)	37	2	44	9	1	54	3		13
稚内	5月8日(水)	40		70		5	75	4		7
計		330	48	1,247	220	50	1,517	78	365	68

高等学校内キャリア教育プログラム



体験型授業：深川西高等学校「日本料理・寿司に挑戦」

高等学校内におけるキャリア教育・職業教育の支援を目的として、「専門学校講話」「職業・職種講話」「体験型授業」「校内進学相談会」の4つのプログラムからなる「キャリア教育プログラム」を全道で展開しています。令和元年度に開催した高校は41校で延べ4,410名の高校生等が受講されました。

令和2年度の受付は4月1日より行っております。詳しくはホームページをご覧ください。

●職業・職種講話

苫前商業高等学校
岩見沢東高等学校定時制
遠軽高等学校
札幌西高等学校定時制
訓子府高等学校
羽幌高等学校
湧別高等学校
白老東高等学校
東川高等学校
倶知安高等学校
美幌高等学校
網走南ヶ丘高等学校定時制
苫小牧西高等学校
津別高等学校
伊達高等学校
札幌白陵高等学校
南茅部高等学校

●専門学校講話

札幌南陵高等学校(保護者・教員)
浜頓別高等学校
遠軽高等学校
千歳高等学校
札幌平岡高等学校

●体験型授業

月形高等学校
余市紅志高等学校
斜里高等学校
弟子屈高等学校
岩内高等学校
日高高等学校
札幌西高等学校定時制
小樽双葉高等学校
倶知安高等学校
訓子府高等学校
豊富高等学校
札幌啓北商業高等学校
深川西高等学校
天塩高等学校
江別高等学校定時制
南幌高等学校
岩見沢東高等学校定時制
伊達高等学校
本別高等学校

キャリアサポートセミナー

北海道教育委員会の主催で平成30年度にスタートした事業で、高等学校で体験型授業のほか、労働法やマナーに関するセミナーを開催する取組です。生徒の希望に応じて複数の講座が用意され、生徒は複数の講座を選択して受講できます。

北専各連は体験型授業の開催に協力しています。

- 【日高会場】開催日：令和元年 8 月 19 日(月) 会場：静内農業高等学校
- 【後志会場】開催日：令和元年 9 月 9 日(月) 会場：倶知安農業高等学校
- 【釧路会場】開催日：令和元年 9 月 13 日(金) 会場：標茶高等学校
- 【根室会場】開催日：令和元年 9 月 20 日(金) 会場：別海高等学校



倶知安農業高等学校

文部科学省委託事業「職業教育魅力発信力強化事業」

専修学校が行う職業体験講座や出前授業など、いわゆる「職業体感型教育」を実施した際の効果や連携に当たっての留意点を整理し、専修学校の理解向上、職業適性のミスマッチや早期離職の現象などにつなげようとする取組です。

1 職業体感型教育等の提供

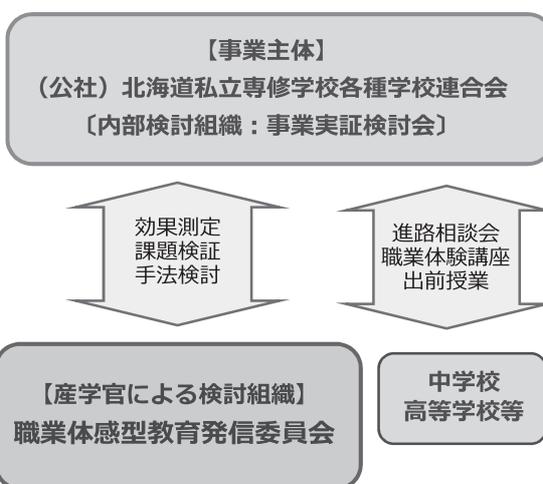
北専各連が中学生や高校生を対象に取り組んでいる「職業体感型教育」を検証の手法として活用します。

2 手法や効果の検証

専門学校や中学・高校生、教員等の意見を得て、産学官の関係機関からなる協議組織により、事業の実施手法や効果を検証します。

3 活用モデルの構築・提案

検討結果をまとめ、北専各連が行っている「職業体感型教育」の改善に役立てるとともに、他地域において事業を導入する際のモデルを提案します。



専門学校勉強会

高等学校教員の方々に専門学校に関する様々な情報をご提供して、進路指導などに役立てていただくことにより、生徒の進路指導のミスマッチを防ぎ、個々の生徒の希望に応えた職業の選択を実現しようとする取組です。

今年度は高等学校進路指導協議会支部や高等学校を単位として10回の勉強会を開催しました。

【専門学校勉強会の概要】

- 対象：高等学校の教員の皆さま（数名単位でも開催できます）
- 必要時間：90分～120分程度
- 開催場所：校内の会議室等をお借りします
- 説明校：北専各連の「専門学校理解向上実行委員会」担当校の職員がご説明します
- 開催例：高校内教員研修会で、学年団で、進路指導教員を対象に、希望教員数名で… など
- 経費負担：開催に伴う経費のご負担はありません

【令和元年度開催実績】

札幌真栄高等学校、北広島西高等学校、高等学校進路指導協議会後志支部、中標津高等学校、浜頓別高等学校、訓子府高等学校、網走南ヶ丘高等学校定時制、雄武高等学校、羽幌高等学校、名寄産業高等学校



申込みから開催まで

- 1 校内で実施確認／日程調整
- 2 専修学校連合会へ申込み
- 3 事前質問のまとめ
- 4 勉強会の開催

専修学校概要・進学ガイドの発行

専修学校に関する様々な情報を盛り込んだ冊子を刊行しています。

進学ガイドは高校生等が進路選択や学校選びを行う際のガイドとして、仕事ガイドとセットで刊行しました。

2021年版は9月刊行予定です。

また、専修学校概要は高等学校教員による進路指導の際に役に立つ、専修学校に関する詳細な情報が盛り込まれた資料です。2021年版は4月刊行予定です。



教員能力認定研修会

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会では私立専修学校各種学校教員の資質の向上を図り、優れた教員の確保に資することを目的に、教員能力認定研修会を毎年開催しています。

また、平成28年度からは北海道の指定を受け、北海道知事が発行する「研修修了証明書」ならびに「教員資格証明書」を得ることができ、「職業実践専門課程」の認定要件である研修会としても活用できる研修会となりました。令和元年度は7月24日～26日、29日～31日の6日間にわたり18校延べ233名の参加をいただき開催いたしました。次年度も引き続き開催いたしますので、多くの教職員及び教員を志望する皆さまの受講をお願いいたします。



令和元年度開催実績

研修日	研修科目	担当講師
7月24日(水)	職業教育論	加賀 千登世 (プランナー・コピーライター)
	教育制度論	木村 純 (北海道大学名誉教授)
7月25日(木)	総合自由科目Ⅱ	吉田 聡子 (株桐光クリエイティブ代表取締役)
	専修学校教育論	大山 節夫 (学校法人吉田学園園長)
7月26日(金)	教育概論	井上大樹 (札幌学院大学准教授)
7月29日(月)	教育方法論	佐藤 勝彦 (札幌大学名誉教授)
7月30日(火)	教育心理学	北守 昭 (EWS 感性科学研究所代表)
7月31日(水)	総合自由科目Ⅰ	神田 裕子 (オフィスレアリーゼ代表)
	青年心理学	山谷 敬三郎 (北翔大学・短期大学部学長)

文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会

文部科学大臣が認定し奨励する「職業実践専門課程」は、「教員に対し、授業及び生徒に対する指導能力等を修得・向上するための組織的に位置づけられた研修・研究の機会を確保していること」が認定要件の一つとなっています。このため北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会は会員校等を支援するため、道からの支援を得て今年度も研修会を開催いたしました。

※平成30年度末現在の道内の認定校数及び学科数：62校 161学科

【第1回】

- 開催日時 令和元年7月23日(火) 15:00～16:30
- 開催場所 京王プラザホテル札幌
- 対象者 北専各連会員校ほか専修学校等の教職員
- 講師 札幌市自閉症・発達障がい支援センター
センター長 西尾 大輔氏
- 演題 「発達障がいのある学生への就労準備支援」
- 参加校・人数 54校 198名

【第2回】

- 開催日時 令和元年12月13日(金) 15:00～16:30
- 開催場所 札幌ガーデンパレス
- 対象者 北専各連会員校ほか専修学校等の教職員
- 講師 札幌学院大学 准教授 井上大樹氏
- 演題 『新時代の「専門学校」の可能性－
「誰も取り残さない」社会づくりへ
若者を送り出す教育へ』
- 参加校・人数 54校 156名



令和2年度事業計画

北専各連は、北海道の私立の専修学校及び各種学校における教育の振興を図り、もって教育水準の向上発展に寄与することを目的として、令和2年度において私立専修学校各種学校に関する研修会を始めとする職業教育を行う専修学校各種学校の支援等に繋がる各種事業を展開いたします。

公1事業

北海道内の職業教育の充実を図ることによって、北海道における教育文化の高揚に資する事業

(1) 「北海道まちかど学園」事業の実施

生涯学習社会を迎え、「誰もが、いつでも、どこでも、何でも学び生き生きとした社会を創る」ことを目的として、道民を対象として道内各地の専修学校各種学校を活用した公開講座を開講します。

(2) 北海道高等学校進路指導協議会等との連携事業

進路指導を行う高等学校の教職員等に、専修学校や各種学校が提供する職業教育への正しい理解をもってもらうことを目的として、北海道高等学校長協会（公私立）及び北海道高等学校進路指導協議会と連携し、高等学校の進路指導担当教員と専修学校等の教師を対象とする研究会や情報交換会、進路指導相談会等を開催・実施します。

(3) 高校生向け出前事業

職業体験等を通じてキャリア教育の推進・充実を図ることを目的として、高等学校と連携し、より多くの高校生を対象に高等学校内キャリア教育プログラムを実施します。

(4) 次世代人材職業体験推進事業の実施

若年者の職業観、勤労観の形成不足等による地域社会の課題の解決に向けて、職業体験の機会に恵まれない中学生を対象に職業体験講座等、専修学校を活用した職業体験支援事業を展開します。

(5) 進路指導相談会の開催

北海道高等学校長協会及び北海道高等学校進路指導協議会と連携を図り、新規学卒者（高校生）、キャリアチェンジを希望する者（社会人、短大大学生）、定職に就くことを希望する者（フリーター、派遣職員等）、保護者、教師等を対象に、就ける職種や職業を考える場を提供するとともに、各分野の会員校が有する職業及び職業教育情報並びに専修学校等に関する情報等を提供します。

(6) 職業体感型教育等の検証・評価等

若年者の職業観や勤労観を目的として法人が実施している「高等学校内キャリア教育プログラム」や「次世代人材職業体験推進事業」「専門学校等進路相談会」などの「職業体感型教育」の各種取組について、関係機関と

ともに検証・評価し、取組内容を改善することにより、より効果的な取組とするとともに、北海道における職業教育に対する理解をさらに深めます。

また、これらの検証・評価や取組の改善によって、他地域においても実施が可能な汎用的な取組モデルを構築します。

(6) 各種刊行物の刊行

・高校生が進路として見出した専修学校等が何を指して職業教育を行うところなのか等を見極め、高校生や進路指導の教師が正しい理解を得るために、「進学ガイド」を発行します。

・高等学校教員に専修学校が提供する職業教育のカリキュラム等の内容を正しく知っていただき、高校生の進路のミスマッチがないよう指導していただくために、「専修学校概要」を発行します。

(7) インターネット事業

インターネット上に、ホームページを開設することにより、広く一般に当連合会の活動や私立専修学校各種学校における職業教育への理解を深め、誤った進路選択を是正するとともに、私立専修学校各種学校の振興発展に資することを目的として情報発信を行います。

公2事業

北海道内の私立専修学校各種学校を支援することによって、北海道における教育文化の高揚に資する事業

(1) 教職員の資質向上事業

職業教育の充実と教職員のさらなる資質向上を図ることを目的として、より多くの参加者を募って教育研修大会を開催します。

(2) 教職員退職手当給付事業

教職員の待遇面における格差を是正し、職業教育を提供する優秀な人材を確保するとともに、専修学校各種学校の教職員が安心して教育活動が行うことができる環境を整備するため、設置者(校)に対する支援を行います。

研修事業への協力

教職員の資質向上や専門学校の質保証向上のため、北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会が開催する教員能力認定研修会や職業実践専門課程に係る研修会の開催に協力します。

令和2年度予算は公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会のホームページ (<http://www.hsu.ac>) でご覧ください。

令和元年度教員能力認定研修会 優秀レポートのご紹介

令和元年度の教員能力認定研修会は、7月24日(水)から同月31日(水)までのうち6日間で開催され、延べ233人の教員並びに教員を志望される学生の方々などが受講されました。(研修科目ごとの開催実績は6ページをご覧ください)

研修科目のうち「教育概論」と「教育心理学」は受講後にレポートを提出する必要があり、レポートの内容も受講認定の条件となっています。

教員能力認定委員会において、受講生から提出されたレポートのうち「教育概論」から1編、「教育心理学」から4編が優秀レポートとされましたので、ご紹介いたします。

■「教育概論」の講義内容

移行期(青年期)教育における専修学校・各種学校教育の意義

- 1 戦後青年期枠組みの形成と崩壊
- 2 高卒後教育の大衆化と中・高等教育の漂流
- 3 現代若者の社会的自立のプロセスとキャリア
- 4 社会的自立条件の問い直しと青年期教育実践改革

■講師

井上大樹先生(札幌学院大学准教授)

■レポートの課題テーマ

社会的自立に関わる今の若者の困難の実態を説明し、これからの社会的自立の条件及び専門学校で重点すべき教育実践について自分の見解を述べる。

■「教育心理学」の講義内容

教育心理学は、人の社会生活上の中で生じる様々な教育的課題について、個々人の心(気持)の有り様に焦点を当て、早急に何らかの解決策を見出そうとする応用科目として位置づけられます。

現在、教育に携わる人は、周知のとおり実践の力量を常に求められています。

このような状況の中で、研修会では、教育の実践的力をめぐる4つの課題について受講者の皆さんとともに考えていきます。

■講師

北守 昭先生(EWS感性科学研究所代表)

■レポートの課題テーマ

現今の教育状況(家庭、学校、社会を含む)を振り返って、人と人との関係性について(とくに、自らの向上心、人に寄り添う、思いをはせるなど)今、出来ることは何か、3つ挙げて自由に展開してください。

優 秀 レ ポ ー ト

【教育概論】

北海道芸術デザイン専門学校 栗田綾音(学生)

戦後は学校から仕事への移行がスムーズであった。また、卒業、就職、結婚、子育てといった、一元的ライフコースがあり、若者は将来のキャリアプランを作成しやすい状況にあったと考えられる。しかし、1990年代からは、高卒就職者の正社員雇用が困難になり、学校では、上級学校への理解を深める教育がされる一方で、社会とのつながりや、就職者の就職者の意識を持たせる教育が減り、学校から仕事への移行が個別化、個人化していった。また、ライフコースが多様化し、学校卒業後の若者の選択肢は、戦後よりも増えたと考えられる。よって、今の若者は、学校教育で社会の中での自分のあり方や、社会人としての意識を考える機会が少ない上に、ライフコースが多様であるために、キャリアプランを作成しにくい実態があると考えられる。

これからの若者の社会的自立には、他者や組織、機関との関わりを意識し、社会から求められている職業人、社会人としての姿勢をつくること。また、ライフコースが多様化しているため、自己分析をしっかりし、これからどうになりたいのか、どうしていくことが自分にとっていいのか、キャリアプランを立てることが社会的自立の条件と考える。

専門学校で重点すべき教育実践は、企業との繋がりを生かし、他者や組織、機関など社会との強い繋がりを若者に持たせる機会を積極的に設けることで、キャリアプランを作成しやすい環境を整えることだと考える。例えば、インターンシップや各専門学校の特性を生かした地

域貢献活動を行うことが考えられる。また、学校から仕事への移行が個別化したことに合わせて個人に焦点を当てたサポートをすることが考えられる。例えば、資料にあった交換日記や自己分析のためのポートフォリオ作りなどが考えられる。まとめると、社会と連携した教育と個人に焦点を当てた教育で社会的自立をサポートすることが専門学校で重点すべき教育実践だと考える。

【教育心理学】

北海道芸術デザイン専門学校 植田裕美(学生)

私は現今の教育状況で、①大人が良い見本になる②心を鍛える③個性を大切に、この3点が今出来ることであると考えます。

①と②は関連しています。青年期に男子はエディプス・コンプレックス、女子はエレクトラ・コンプレックスを感じるとされています。男子は男らしくなるように育てられる過程で、父親のことをライバル視し始めますが、父親には敵わないと感じ、その後父親を自然と見本にするようになります。女子は逆に、母親をライバル視し、その後自然と母親の生き方をまねるようになります。このことから青年期に親が良い見本をすることが、子供が大人になったときに社会で生きやすくなるためのポイントであることが分かります。

若くてもうつ病になる人が増えている今の日本だからこそ、なるべき見本は強い心と広い心を持つ大人です。強い心は、肯定的な言葉を使うが触れていく習慣から、広い心は、過去の楽しいイメージを描く訓練をすること

で得られるため、明るく生きるための努力は難しいものではありません。大人が子供たちにこの習慣づけの大切さを伝え、自らが実践して見本になることが出来れば、生きづらさを抱える人が減るのではないかと感じます。

③は、研修でのグループワークを経て感じたことです。ユングの4つの心的機能の実験から、私はヒューマン型に属しました。ワークは終始穏やかでしたが、先頭切って話し始める人がなかなかいなかったり、はなしがとまってしまったりすることもあり、積極性が欠けていました。このことから、活気ある話し合いは、個性が違う人が集まるからこそ生まれることが分かります。近年、SNSの発達により対面での会話力が落ちていと言われているため、「個性があるからこそ面白い」という発想を意識的に持つことが大雪だと思います。

これらの3つの要素を今から意識することが増えれば、現在の教育状況はもっと明るく気持ちの良いものへと進んでいくと感じます。

北海道農業協同組合学校 白井孝憲 (教員)

家庭、学校、社会における現在の教育状況を振り返って見たとき、様々な問題が見えてくる。これらの問題はいずれも人のところを置き去りにして教育の効率性のみを追究して来た結果である。こころの問題は、人と人との関係だけでなく、自分自身との関係すらも難しいものになっている。今、教育の場で出来る対処法として、次の3点が考えられる。①学生に自分自身のこころのありかを気付かせる事、②自己肯定感と共感能力を養うように指導する事、③教師も学生と共に学びのフィールドを歩む事、である。以上の考えを具体的に述べる。

1. 現在の教育状況について

家庭では最も親密な親子の間でさえこころが通わず、学校でも先生や友達から孤立し、職場に対応できず引きこもる若者がいて、日本の社会問題となっている。

2. 現在の教育状況について

上記の問題は、家庭や学校や職場で行われる教育が効率のみを追求し、学びに不可欠な“こころ”を置き去りにしてきたことに原因があると思われる。そのため学ぶ側も教える側も自らの立ち位置を見失い、相手の思いに気付く能力が弱くなってしまったのである。

3. 教育の場でできる事

この問題に対処するため、以下の3点を示したい。

- (1) まず、自分のこころのありかは、今ここにあることを理解し体感できるよう、調身、調息、調心の方法を教える。
- (2) 次に、自己肯定感を根付かせる。この感覚は言語脳と親和性があり、頭に浮かぶ言葉を肯定的なフレーズに置換える訓練をする。同時に共感能力を鍛える。この能力はイメージ脳と親和性があり、優れた芸術作品を鑑賞する機会を設け、こころで聴く体験をさせる。
- (3) 最後に、教師自身も学生の成長を通し学ぶ姿勢と、学びのフィールドを共に歩む覚悟を持つことである。

北海道芸術デザイン専門学校 栗田綾音 (学生)

近年、人工知能の発達により、簡単な答えを導き出すことの価値は弱まり、知識を使い正解の無い問いに挑む力が重要視されるようになってきている。また、グローバル化により、多様な文化を受け入れる精神や、自らの市場価値の創造なども重要視されている。教育では、これまで教員が答えを与えるような受動的な学習が行われていたが、2020教育改革では、アクティブラーニング

型の授業を取り入れ学習が自ら考え、答えを導き出す能動的な学習を導入する計画がある。このような現在の教育状況を踏まえ、これからは人と人とのコミュニケーションが重要になってくると考えられる。

上記のことを踏まえ、今出来ることを3つ挙げると、1つ目は、強いところと広いところを育てることである。強いところは肯定的な言葉を使うことで、広いところは過去の楽しいイメージを思い描くことで育てられる。

相手の話を聞ける、自分の意見を言えるこころの状態を整えることが重要だと考える。

2つ目は、頭の中の情報を整理、理解して印象に残ったことから話すことである。自分の伝えたかった情報が相手に伝わるように、自分の意見を伝える前に、噛み砕いて相手に伝わりやすくしたり、確認作業をすることが重要だと考える。

3つ目は、相手の思いに耳を傾けることである。GROWアプローチ^(*)や3つの聞き方を参考にし、相手の話の背景にある思いを汲み取り、具体的な意思を引き出すことを意識する。これにより、目標の方向性を見つけることや、進捗状況を把握することが重要である。

以上のことをまとめると、グローバル化や人工知能が発達してきた現代において、コミュニケーション能力の教育が重要性を増してきているため、心を整えることを訓練し、実際にコミュニケーションをとる際には、自分の意見や思いの伝え方、相手の話の聞き方を意識することが今出来ることだと考える。^{*}人の成長を促すモデル (編者注)

北海道文化服装専門学校 吉岡千尋 (学生)

私が考える「人と人との関係性について今、出来ること」の一つ目は「家族との時間を大切にすること」である。

まず、家族との時間を大切にすること自体が人を思いやることに繋がっていると考えた。一番身近である家族を大切にすることで自ずと周囲の人に対しても思いやりの心生まれるのではないかと私は考えた。

二つ目は「人の話をよく聞くこと」だ。人の相談にのったり、話し合いならその人の意見をしっかり聞く。話をよく聞くことによって、例えば相談に乗ってあげるのならその人のことがわかるようになる。それと同時に、相手との人間関係が良くなる。自分の話を真剣に聞いてくれる人に好意を持つのは当然と言っても良いだろう。他にも意見交流や話し合いの場なら、自分にはない考えを周りから聞くことができ、自分や他の人の成長にも繋がるのではないかと考えた。

三つ目は「誰とでも同等に接すること」である。相手のことが好きだから、嫌いだからと対応を変えたりしないで、等しく接する。上から目線で相手を見下すような態度なども好ましくない。

話をする上でだったり、性格だったり、相性の合う合わないはもちろんあるだろう。世の中のすべての人と相性の合う人間なんていないのだから。しかし、それは相手に接するときの態度を変えて良い理由にはならない。邪険に扱うようなことをすればよい人間関係は築けないだろう。

まとめると、一つ目「家族との時間を大切にすること」で思いやりの心を育むことができ、二つ目「人間の話をよく聞くこと」によって相手の気持ちやその人自身のことを理解し、三つ目「誰とでも同等に接すること」で良好な人間関係を築くことができる。

これら三つが私が考える「人と人との関係性について今、出来ること」である。

要望活動等

●国に対する要望活動

令和元年11月11日に全専各総連役員が荻生田文部科学大臣と面会して、専修学校における職業教育の振興策などについて意見交換を行いました。

●道に対する要望活動

令和元年10月7日に「令和元年度自民党道連団体政策懇談会」が開催され、私学団体が連携して、各団体が抱える懸案事項の解決に向けて要望しました。当連合会からは次の5項目について要望しました。

- ・私立専修学校等管理運営対策事業補助金の増額を図ること
- ・「職業実践専門課程」認定校に対する新たな助成措置を講ずること
- ・私立専修学校各種学校教職員退職資金給付事業補助金の増額を図ること
- ・専修学校高等課程生徒に対する授業料軽減措置の拡充を図ること
- ・職業実践専門課程教員研修事業補助金の継続を図ること

また、令和元年第4回定例道議会において、「私立専修学校等における専門的職業人材の育成機能の強化等を求める意見書」を採択していただきました。

●札幌市に対する要望活動

令和元年11月13日に「自民党札幌支部連合会政策要望懇談会」が開催され、札幌市教育委員会から受託して当連合会札幌支部が実施している札幌市内の中学生が職業体験を通して将来の生き方や進路について学ぶ「進路探求学習オリエンテーリング事業」について、より多くの中学生が受講できるよう事業内容と助成措置の拡充を要望しました。



令和元年度受章者

令和元年度に北海道社会貢献賞を受賞された方に対し、その栄誉を称え心から祝意を表しますとともに、会員の皆様に受章者の功績をご紹介します。



叙勲(瑞宝中綬章)

学校法人稲積学園

顧問

小野 一 幸先生

先生は昭和28年3月に岩手大学農学部を卒業後、同大学農学部勤務され、昭和41年4月からは岩手医科大学に勤務され、昭和55年5月には旭川医科大学解剖学第一講座の教授に就任されました。平成8年3月に同大学を定年退官されるまで解剖学の教育、研究に努められ、同年4月1日に同大学の名誉教授となりました。

特に研究では、超微細組織化学的手法を用いた腸の上皮細胞のゴルジ装置の機能的多様性を明らかにし、現在のゴルジ装置の膜リサイクルの概念の礎となりました。

退官後の平成8年4月1日から平成31年3月31日まで、学校法人稲積学園北都保健福祉専門学校校長兼理事に就任され、セラピスト、看護師の養成に尽力されました。また、平成31年4月1日からは引き続き学校法人稲積学園の顧問として、医療人の養成に尽力されています。(小野一幸先生は令和2年2月4日、ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。)



北海道社会貢献賞 (私学教育功績者)

学校法人経専学園

理事長

倉田 恵先生

先生は昭和61年に北海道保育総合専門学校事務長、平成元年に札幌ビジネスアカデミー専門学校の部長職として勤務の後、学校法人経専学園の理事、常務理事、専務理事を経て、平成25年から道法理事長として、永年にわたり職業専門分野の教育の充実と発展に貢献してこられました。

この間、専門学校における実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業、団体との連携体制の確保強化を進め、教育の質の向上に努めるなど、即戦力の専門的人材の育成に尽力されています。

また、北海道私立専修学校連合会役員として、職業体験の機会に恵まれない中学生や高校生を対象とした職業講話や職業体験講座を実施するなど、キャリア教育の振興に努めてきたほか、全国学校法人立専門学校協会理事、北海道学校法人立専修学校協会会長を歴任し、本道の私学教育及び専修学校教育の振興に貢献されています。

支 部 だ よ り

札幌支部

支部長／布川 耕吉

日頃より、札幌支部への多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、令和元年度、札幌支部では体育事業をはじめ、札幌市教育委員会の提唱する進路探究学習オリエンテーリング事業に協力するなど様々な取り組みを行いました。

第61回さっぽろライラックまつり

5月18日・19日に大通公園で開催された「さっぽろライラックまつり」に専門学生がライラック娘として参加協力し、まつりの雰囲気華やかに盛り上げました。

緑の募金活動

5月1日～6月20日の間に4校、200名程の専門学生が参加し、「緑の募金」活動を行いました。この活動の功績に対して「公益社団法人北海道森と緑の会」から今年度も感謝状をいただきました。

体育事業

6月4・5・11・24日に美香保体育館でバスケ・バレー・卓球・バドミントン大会を、また12月3・4日には北ガスアリーナ札幌46でフットサル大会を開催しました。



進路探究学習オリエンテーリング事業

札幌市立中学校・中等教育学校の全ての1・2年生を対象に7月20日(土)～8月22日(木)に実施しました。

今年度は57校の札幌支部会員校から提供された104講座のうち83講座に1,083名が受講しました。また、保護者の見学者数は463名でした。

受講した生徒の皆さん、見学された保護者の皆さんからも高い評価をいただいております、引き続き充実した職業体験ができるよう取り組んでまいります。

現職教員新年研修会・新年交礼会

令和2年1月10日に札幌ガーデンパレスにおきまして、佐藤幹夫氏(札幌山の手高等学校生徒指導部長・ラグビー部監督)をお招きし、研修会を開催しました。佐藤氏から人のため、無償でやることの大切さを教育をするのではなく共に課題に取り組む学び合う大切さを教えていただきました。

研修会終了後には、新年交礼会を国会議員、道議会議員、札幌市議会議員など多く来賓の方のご参加をいただき、盛会に開催することができました。



函館支部

支部長／奥 ひろみ

日頃より函館支部にたいしまして、ご支援、ご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

また、昨年度は函館で開催されました教育研修大会に多数のご参加を賜りまして、誠にありがとうございました。皆様のご協力に感謝申し上げますとともに



に、担当支部としての責務を果たし安堵したところでございます。本年も変わらぬご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、全国的な暖冬は函館も例外ではなく年明け以降は降雪日も少なく、日中では春の陽気さえ感じるような今日この頃です。函館は観光都市として冬場の集客が課題となっているなか、積雪ゼロにより冬のイベントの中止も相次いでおり、観光関連業界の多大な被害による落ち込みの長期化が懸念されます。

令和2年はこのようにスタートしましたが、函館支部では、変化の年となりそうです。

加盟校9校に増減はありませんが、4月には函館医師会看護・リハビリテーション学院が開学し、道南では初めてのリハビリテーション学科が誕生します。高校生にとって地元での資格取得の幅が広がることは喜ばしく、若者の定着に繋がって欲しいと願っております。

現在支部では、昨年度の事業として始めた『道南の高校生向けバスツアー』が好評だったため、今年度末にも継続開催を計画しており、前倒しとなる進学相談会と併せて準備を進めているところです。

いよいよ4月には就学支援新制度が始まります。申請までの準備も大仕事でしたが、制度がスタートするこれからの事務作業は大変なものです。各校ともスピーディに作業の進行に尽力しなければなりません。

この新制度が、私達専修学校への進学者増へ繋がるようお願いとともに、支部としても情報の共有化を図り、円滑な運用を支援する所存です。

空知支部

支部長／齋木 修二

日頃より当支部の運営におきまして多大なるご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。空知地方は営農、林業、鉱業などを中心とした豊かな経済圏でありましたが、時代の変化とともに少子高齢化が進んでおります。

空知地方は、大きく分けると南空知と北空知に分類されておりますが、さらに深川以北は行政的には空知とされているものの実際の経済圏は旭川寄りです。車両登録は旭川運輸支局となっております旭川ナンバーです。私の住む

芦別市は最北の札幌ナンバーの地域です。空知地方はこのように二つの経済圏が交差する珍しい地域でもあります。

今年度の空知管内の高校出願状況を見ておりましても募集定員を超える学校はごくわずかで、ほとんどが生徒確保に苦しんでいるところです。こうした中で上級学校への進学や地元への就職状況を見てみると、両者とも大規模経済圏への流出が非常に多いのが現実です。

そこで空知支部として、地域がより活性化するために各市町村の行政や商工会議所とも連携をとって、地元の様々な魅力を若者に発信できることが重要と考えております。そうして就きたい職業を理解することで必要なスキルアップを目指して進学し、勉学に励んで、よりよい社会人としてまた地元に戻ってきてもらいたいと考えております。

このためには、地域社会と密接な連携をとったより質の高い教育を行うことが、我々専門学校に課された使命と考えております。

旭川支部

支部長／開田 仁司

令和の年の最初の新年を迎え、皆様にお慶びを申し上げます。平成から令和になっても専門学校が受ける逆風は止むことを知らず、なお厳しさが増す様相になっているようです。

また、旭川市では旭川大学の公立化を進めており、一層専門学校への進学が厳しさを増しているところであります。そこで、旭川支部は旭川市及びイオン旭川駅前店との3者連携(若者応援プロジェクト)を結び、専門学校の魅力発信や18歳人口の流失を防ごうと、昨年3月より色々な取り組みを行ってきました。今回はその取り組みについてご紹介をさせて頂こうと思います。

まず、3月にイオン旭川駅前店の周年行事に合わせて、若者応援プロジェクトの一環として旭川支部加盟校の特色を生かし、お仕事紹介イベントを実施し約100組の親子に参加していただきました。これについては小学生、中学生、高校生の親子に参加していただき、旭川市内での初めての取り組みとしては盛況の中で終わらせることができましたと思います。

7月には、旭川支部加盟校で、イオン旭川駅前店の1階広場及び4階ホールを使用し進学相談会を実施、また11月にも同じく進学相談会を実施しました。



参加者はそれほど多くありませんでしたが、1階のブースの前を通る市民や、高校生などに旭川市内にある専門学校などを再認識してもらえらる機会を作ることができたと思います。今後も旭川支部及びその他の支部の皆さんと連携し、このような機会を多く設けられるよう試行錯誤しながら進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願い申し上げます。(今現在の案としては、イオン旭川駅前店の4階イオンホールをお借りして、北専各の進学相談会を実施できないかを検討中です)

最後になりますが、北専各加盟校の益々のご発展を心

よりお祈り申し上げます。

北見支部

支部長／柏尾 典秀

日頃より一方ならぬご厚情深く御礼申し上げます。北見支部も新年度を迎えることができました。ひとえにご厚情によるものと深く感謝いたしております。本年度も倍旧のご愛顧の程よろしくお願い申し上げます

さて、専修学校生のスポーツの祭典「第16回 北専各連北見支部スポーツフェスティバル」が5月17日、北見市道立体育館にて開催されました。この祭典は、専修学校相互の交流とスポーツを通して健全な精神の涵養、



体力の向上などを目的としています。職業教育に取り組む専修学校生が、普段とは違う環境の中で、一つに向かって一致団結できることも、この祭典の醍醐味の一つと言えます。

今年度のスポーツ大会は、4種目(ソフトバレー・大玉転がし・ドッジボール・玉入れ)で熱戦が繰り広げられ、北見支部傘下校の北見美容専門学校、オホーツク社会福祉専門学校、北見情報ビジネス専門学校、北見商科高等専修学校の各18チームが参加して行われました。競技は対抗戦でそれぞれ点数を積み上げられ、始めに行われたソフトバレーでは、オホーツク社会福祉専門学校介護福祉科2年がトップを走り、2番目に北見商科高等専修学校3年B組が追う展開。次の新種目、大玉転がしでは北見情報ビジネス専門学校の2年B組がトップ、続いて北見商科高等専修学校3年A組が続き、3種目目のドッジボールでは北見商科高等専修学校2年B組がトップに立ち、どのチームが優勝してもおかしくない状況でした。前種目でトップに立った北見商科高等専修学校2年B組が最終種目の玉入れで、トップを取り、逆転の総合優勝を飾りました。全競技が予定通りに終了し、普段はなかなか汗をかく機会が少ない専修学校生もこの日ばかりは心地よい疲労感に満足した笑顔を見せていました。



— 以下成績 —

- ◎総合優勝 北見商科高等専修学校 2年B組
- 準優勝 北見商科高等専修学校 3年A組
- 3位 オホーツク社会福祉専門学校こども未来学科 2年
- ◎【ソフトバレー】
- 優勝 オホーツク社会福祉専門学校介護福祉科 2年

- 準優勝 北見商科高等専修学校 3年B組
- 3位 オホーツク社会福祉専門学校 ども未来学科 2年

◎【大玉転がし】

- 優勝 北見情報ビジネス専門学校 2年B組
- 準優勝 北見商科高等専修学校 3年A組
- 3位 北見情報ビジネス専門学校 2年A組

◎【ドッジボール】

- 優勝 北見商科高等専修学校 2年B組
- 準優勝 北見美容専門学校 2年
- 3位 オホーツク社会福祉専門学校 ども未来学科 2年

◎【玉入れ】

- 優勝 北見商科高等専修学校 3年A組
- 〃 北見商科高等専修学校 2年B組
- 3位 北見商科高等専修学校 2年A組

道東支部

支部長／北上 俊幸

日ごろより道東支部に対しまして多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は平成31年と令和元年という二つの年を体験するという貴重な年となりましたが、昨年も日本各地では自然災害に見舞われた年となり、8月には九州北部豪雨で観測史上1位の記録を更新、9月には過去最強クラスの台風で甚大な被害に見舞われるなど、最近では「史上最大」「記録更新」「数十年に一度」といったワードを連日のように耳にしました。こうした自然災害がいつ起きても不思議ではない状況の中、学校として生徒の安全を第一に考え、備えや訓練も重要視していかなければならないと考えております。



さて、今年度の道東支部の活動であります、3月に「北専各連進路相談会」5月に加盟校共同で学生応募のポスターを作製、10月には道東支部教職員研修会を実施し、西野学園前鼻理事長によ

る「日本の教育の現状と取り巻く環境の変化について」の演題で講演会を開催しました。

各校の活動としては、釧路孝仁会看護専門学校は、開校7周年を迎え今年度は32名の新入学生が看護師への第一歩を踏



み出しました。くしろせんもん学校では釧路市都市整備部公園緑地課から依頼を受け、令和5年完成予定の昭和東公園整備に伴う地域説明会に参加し、主に遊歩道における地域住民が楽しめる遊具案の提示をしました。釧路理容美容専門学校は、北海道着物着付けコンテスト大会にて振袖の部で最優秀賞、11月に全国理容美容甲子園(仙台)に2名が出場し、うち1名が入賞を果たしました。

胆振日高支部

支部長／澤田 真奈美

平素より、胆振日高支部の運営に多大なるご支援を賜りますこと心より御礼申し上げます。胆振日高支部は7校を会員とする支部で運営されております。

さて、現在の社会を見渡しますと、人口減少が急速に進む最中、地方における人口減少はより一層、歯止めをかけることなく宥進し続け、地方の経済に更なる大打撃を与えております。

そこで、今、目を向けるべきは、これから将来に向けて専修学校が地方において生き残りをかけて、地域社会に偏在するニーズに適応しながら変化することが出来るかという事です。

今、社会は何が起きているのか、そして、何が必要かということを追及していきますと、最終的には、やはり、人材育成教育こそが、地域社会の活性化に繋がるだけではなく、最終的に日本の経済を救う最も重要な要素となることを確信致しております。

また、政府が2021年度を目標とする高校普通科を抜本改革し普通科の下に各種の専門コースの設置を義務付けも検討している、いわゆる「高校の専門学校化」に対しまして、我々は、更に上位の人材育成を行う教育機関である専修学校として存続するための検討を早急に進める必要があります。

併せて、留学生の受け入れを率先することにより、留学生が地域社会とより深いつながりを持ち、日本人と「共生」することの出来る教育を意識した専修学校となるように努めることも、この時代に於いて重要なことであると思います。

今年も、支部会員校の皆様のお力を賜りながら、専修学校各種学校が社会より信頼されると同時に地域の専門職人材を育成する教育機関として持続できるよう、精進して参りたく存じ上げますので、一層のご協力を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

会員校の動き

- | | |
|------|----------------------|
| 【入会】 | ■吉田学園公務員法科専門学校 |
| 【退会】 | ■池見札幌歯科衛生士専門学校 |
| 【退会】 | ■専門学校エステティックビューティー札幌 |
| 【退会】 | ■専門学校日本福祉学院 |
| 【退会】 | ■北海道アートクラフトアカデミー |

2020 専門学校等進路相談会開催のご案内

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、
3月と4月に開催を予定していた函館、釧路、北見、滝川会場は
開催を中止しました。

開催地	開催日時	会場
稚内	5月7日(木) 14:30~17:30	サフィールホテル稚内
札幌	5月8日(金) 15:30~18:30	ロイトン札幌

- 札幌会場は「NPO 法人高校生進学支援の会」と共催で専門学校、大学、短大が参加し、併せて「進学マネー講座」を開催します。
- 稚内会場では次のコーナーを開催します。
 - ①官公庁や企業等による「職業説明・体験コーナー」
 - ②日本学生支援機構のスカラシップ・アドバイザーによる「奨学金等進学資金説明会」
 - ③ジョブカフェ北海道による「職業相談コーナー」「職業興味検査コーナー」
 - ④学生会館や学生向けマンションやアパートをご紹介します「住まいに関する相談コーナー」




NEW! 新金のコードで、進学をあまりめない

返還不要の新しい奨学金制度が、2020年4月からスタート!

学校の経済的な理由で進学をあきらめないよう、みなさんの「学びたい気持ち」を応援する国の新しい奨学金制度が始まります。

新しい奨学金制度には、2種類の支給があります。

給付型奨学金 原則、返還が不要な奨学金です。	授業料等減免 授業料と入学金の免除、または減額するものです。
----------------------------------	--

詳しくは募集パンフレットをご覧ください。

5/7(木) 14:30~17:30

サフィールホテル稚内
稚内市栄道1丁目 tel.0152-23-8111

わが国にないとは何んでもない! 専門学校等個別相談コーナー

奨学金等進学資金説明コーナー
14:30~16:00 216-16~16:48 216-00~16:30 216-46~17:18

職業興味検査コーナー
15:00~16:30 216-46~16:10 216-29~16:53 217-00~17:33

進学マネー講座
職業説明・体験コーナー

住まいに関する説明コーナー

500円分の図書カードプレゼント! 無料バス運行!

公益社団法人 北海道私立専修学校各種学校連合会 tel.011-242-1955
〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西6丁目3番1号 札幌ガーデンビル内

HSU 札幌